



農業知識広場 農へのこだわり

〜知っててよかった〜

「柿の生理落果とその対策」

柿には自らの樹勢を調整するために、成り過ぎた果実を落とすことで着果過多を防ぐ「生理落果」という自然現象があります。生理落果は養分の取り合いなどを防ぎ、樹体を健全に守るための現象で、開花直後から6月末頃までが落果の第一波で、樹体自らが幼果を落果させます。果樹では6月に多くの樹種で発生し、この生理落果を「ジューンドロップ」ともいいます。

生理落果は放任状態では防ぐことは難しく、原因を知り適正な管理を行うことで被害を最小限にすることが大切です。

●生理落果の原因

- ① 着果過多
- ② 不受精
- ③ 長雨や曇雨天による日照不足
- ④ 樹勢バランスの不均衡など

農業知識広場

●対策

- ① 着果の多い部分のツボミを間引いておき、6月下旬に葉果比として「富有」で25枚以上の葉に1果、西条柿のような小型の柿は15枚以上の葉に1果となるよう間引き、着果過多を防ぎます。
 - ② 「富有」は花粉が少ないので受粉樹として「禪寺丸」を混植するか、人工受粉を行います。
 - ③ 天候により日照不足を避けることは困難ですが、整枝・剪定で日当たりの良い環境をつくるのが大切です。
 - ④ 肥料や水の過不足は樹勢のバランスを崩す原因となります。特に長雨時の排水対策や梅雨明けの過乾燥に注意しましょう。
- また、柿は害虫の「カキノヘタムシ」による落果が発生することがありますが、ヘタの部分に食入痕があるので生

理落果と区別できます。防除の適期は6月上旬から8月中旬、防除薬剤には次のようなものがあります。

- スミチオン水和剤40
- スタークル顆粒水溶剤
- ジェイエース水溶剤

(農薬の散布にあたってはラベルをご確認ください。)

適切な管理で、大切な果実を守りましょう。

確認しましょう!! 電気さくの正しい設置方法

「電気さく」とは?

- 田畑や牧場などで、高圧の電流による電気刺激によって、野生動物の侵入や家畜の脱出を防止する「さく」のことです。
- 「電気さく」は、人に対する危険防止のために、電気事業法で設置方法が定められています。

❗ 「電気さく」を設置する際の主な注意点

家庭用電源から直接、電気さくに電気を供給させることは絶対に行わないでください。

人や家畜を死傷させる事故につながるおそれがあります。



❗ 漏電遮断器の設置

電気さくに公道沿いなどの人が容易に立ち入る場所に設置する場合で、30ボルト以上の電源(家庭のコンセントなど)から電気を供給するときは、漏電による危険を防止するために、漏電遮断器を設置する必要があります。

❗ 電気さく用電源装置の使用

電気さくに電気を供給する場合は、感電により人に危険を及ぼすおそれのないように、出力電流が制限される電気さく用電源装置を用いる必要があります。

❗ 開閉器(スイッチ)の設置

電気さくに電気を供給する回路には、電気さくの事故等の際に、容易に電源から開放できるように、開閉器(スイッチ)を設置する必要があります ※電源装置本体に付属されており、容易に操作できる場合、外部に追加する必要はありません。

❗ 危険である旨の表示

電気さくを設置する場合は、人が見やすいように、適当な位置や間隔、見やすい文字で危険である旨の表示を行うことが必要です。



農林水産省ホームページより



中植 俊明 (指導員 川内 航平)

季節の変わり目です。体調管理にはくれぐれも気を付けていただき、適期作業、適期防除に努めましょう!